



いけばなインターナショナル名誉会長の沼田恭子大使夫人に、終わりに胡蝶蘭をいれていただく

写真提供：筆者（以下も同じ）

リレーエッセイ
海外派遣
専門家なより

ふくしまこうか
福島光加

(財)草月会理事・本部講師

「花のライブ」に 拍手喝采

カナダ3都市でいけばなデモンストレーション

2006年5月、ジャパンファウンデーションは、在カナダ大使館、在バンクーバー総領事館、在モントリオール総領事館との共催で、バンクーバー、モントリオール、オタワのカナダ3都市でいけばなデモンストレーションおよびワークショップを開催しました。ジャパンファウンデーションが講師として派遣し、実施にご尽力いただいた福島光加氏にレポートをお願いしました。（編集部）

沼田貞昭駐カナダ大使の挨拶に続き、幕の前でまず大小10点を1時間ほど解説を交えていけあげていく。そのあとはいよいよフィナーレの大作の制作がはじまる。

背後の幕が左右に開くと、観客から小さなどよめきが起こる。黒い幕の前には、高さ4メートルを越す2組の角材のオブジェが現われる。葉を取り除いた雲龍柳がゆさゆさと登場し、ライラック、大

まり、あじさい、アンズリウムなどが、助手によってもってこられる。花材はオタワの花市場で調達したり、また個人のお宅からいただいたもの。角材は会場の大ささみで、急遽ホームセンターで入手し、組み立て、色をぬったものだ。

お手伝いいただく各流派の方

たちが、私の入れた枝や花を、大水盤や、枝の途中につけられた水を入れるための「おとし」に手際よくとめる。6メートルの作品のしめくりには、いけばなインターナショナルオタワ支部名誉会長でもある沼田恭子大使夫人に舞台上で胡蝶蘭を入れていただいた。

お礼のあいさつに続き、拍手の中をお世話になった方々を紹介すると観客が一人、また一人拍手をしつつ立ちあがる。スタンディングオベーションだ。私のいけばなの歴史のなかでも、こんな場面は数えるほどしかない。興奮のなかにも熱いものがこみあげてくる。

海外

でいけばなを紹介するときは、デモンストレーションといつて、何もないところから作品をいけ、観客にも同時に体験をしてもらう。私の場合、1時間半くらいで、大小10点前後をいける。花のライブともいえるだろう。また、ワークショップといつて、花をいける技術を指導したり、参加者

カナダのオタワでのいけばなのデモンストレーションは、2006年5月30日、ナショナルギャラリー内の講堂で行なわれた。階段状の客席には300余名の人々が、じつとステージを見下ろす。オタワに先立ってデモンストレーションを実施したバンクーバー、モントリオールの会場より幅も高さもある大きな舞台である。



ふくしま こうか ●聖心女子大学卒業。東洋英和女学院在学中より草月流いけばなを学ぶ。現在は、草月流本部教室や国内各地に加え、海外でもいけばなの指導や普及に尽力。訪れた国は、1980年代より40カ国以上に及ぶ。チタンやステンレスの花器のデザインも行なう。著書に作品集『花だまり』やエッセイ『南米いけばなの旅』など

(注) 5年に1回開かれるいけばなインターナショナル世界大会が、今年10月27日(土)30日に東京で開催される。創立50周年を記念して、日本では記念切手も発行される予定

[スケジュール]

バンクーバー

●デモンストレーション

日時：2006年5月20日(土) 13:30~
会場：Alice MacKay Room,
Vancouver Public Library

モントリオール

●デモンストレーション

「モントリオール日本月間 05・2006」
事業として実施

日時：5月24日(水) 11:00~
会場：バンクーバー総領事公邸
(ウェストマウント市)

日時：5月26日(金) 19:00~
会場：ピクトリア・ホール
(ウェストマウント市)

オタワ

●ワークショップ

日時：5月28日(日) 14:30~
会場：在カナダ日本国大使館講堂

●デモンストレーション

日時：5月30日(火) 19:00~
会場：Auditorium, National Gallery of
Canada

日時：5月31日(水) 11:30~
会場：カナダ大使公邸

のいけた作品を講評したりする。デモンストレーションの場合、現地到着のあと、会場を下見する。当日の作品の大小を決めるためである。花器の選定、花市場での早朝の買いつけ。枝ものは入手が難しく、個人宅や植物園に協力をお願いする。そんな

よりのため、今回もベンチ、ワイヤー、のこぎりと替え刃、ひもや釘、なた等を、同行して助手を務めてくれた同じ流派の伊藤尚子さんがあらかじめ現地に送っておいてくれた。持参すれば必ず税関の通関手続きに困惑するからで、この世界情勢であれば仕方がない。ジャパンファウンデーションでの派遣に際しては、各地の在

外公館の大使・総領事夫妻ほか職員にお世話になるほか、いけばなインターナショナルのメンバーに協力していただくこともある。アメリカ人、エレン・ゴードン・アレンさんが設立したこの組織は、いけばな愛好家の

流派を超えた集まりで世界中にあり(60カ国に165支部)、私の所属する草月流も属している。今回も他の流派の方々にも、たくさんの手助けをしていただきありがたかった。

デモ

ンストレーション

後、率直な感想が聞ける時間を私は貴重と思っ

ている。「いけばながどのようにいけあげられていくのがわかった」、「不

思議な、感じたことのない落ち着きを味わった」。そこにいた日本人の方々も「こういういけばな紹介の形式を見たのは初めてです」という声もあった。終わって作品をこわしているとき、

じっと見ていた青年がいた。「僕が一番に残念に思うのは……」という言葉にギクリとした。いけばなは自然破壊ではないということを伝えようと意識をしな

「今、この作品が、この短い時間だけで消えていくことだ。それともう一つ、日本人が花をいけ終わったとき、ゴミやくずが消えていることだ。その潔さが素晴らしい」

日本人は世界に与えるものをたくさんもっていてうらやましい。これはある国の大使夫人が沼田大使に言った言葉という。これから海外で活躍する若い

人には、一つでいいから日本独特の芸術表現を語れるものを持つていてほしい。自分が発信したものが返ってくるそのなか

ワークショップのあと、参加者しながら、日本文化について話をしなや込む(どちらオタワ)



に、日本の独自性、そして普遍性が見えてくるだろう。思いもしなかった、自身のなかに培われたものが目の前に引き出されることもあるだろう。

国際交流とは、文字通り、一方通行ではなく、日本とは、自分とは、ということを表す鏡でもある。